



Policy Manager ユーザガイド

リリース 9.3



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本CA株式会社（以下「CA」）により隨時、変更または撤回されることがあります。

CAの事前の書面による承諾を受ければ本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CAが知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、

(i) 本ドキュメントが関係するCAソフトウェアの使用についてCAとユーザとの間で別途締結される契約または(ii) CAとユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されているCAソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただしCAのすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CAに文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CAは本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CAはお客様または第三者に対し責任を負いません。CAがかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者はCAです。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3)または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このドキュメントでは CA Spectrum® Infrastructure Manager (CA Spectrum)について説明します。

CAへの連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: Policy Manager	7
Policy Manager について	7
Policy Manager ポリシー	7
ポリシー定義.....	8
ポリシー ルール.....	8
ルール設定.....	8
Policy Manager へのアクセス	9
第 2 章: ポリシーの作成	11
ポリシーについて	11
ポリシー定義を正常に計画する方法	13
ポリシー定義の制限.....	14
内部属性.....	15
外部属性.....	15
ポリシーの作成	16
カスタム ルール設定の作成.....	18
SpectroWatch 設定の追加.....	19
事前定義済みルール設定の追加.....	20
ポリシーの有効化および無効化	22
ポリシーの表示	23
すべてのポリシーの表示.....	23
グローバルコレクションによるポリシーの表示	25
ポリシー情報の表示.....	26
ポリシー ルール情報の表示	29
[ロケータ タブ] からの検索	30
第 3 章: ポリシーの編集	33
ポリシーの編集	33
ポリシー ルールの編集	34
ルール設定の編集 (属性値)	35
ポリシーの削除	36
ポリシー ルールの削除	37

第 4 章: ポリシーの管理	39
ポリシーの適用を確認する方法.....	39
イベントとアラーム.....	39
ポリシーのエクスポート	40
ポリシーのインポート	43
第 5 章: レガシーの XML ベースのポリシー	45
XML ベースのポリシーの維持.....	45
XML ベースのポリシーから OneClick コンソールベースのポリシーへの移行	46
第 6 章: 例	47
Device Fault Management ポリシーの設定.....	47
Alarm Thresholding ポリシーの設定	50
付録 A: 推奨するポリシー設定	55
Port Fault Management ポリシー	55
Device Fault Management ポリシー	57
General Management ポリシー	58
Polling/Communication ポリシー.....	59
Alarm Thresholding ポリシー	61
Port Performance Thresholding ポリシー	63
Device Configuration ポリシー	65
付録 B: Policy Manager の権限	69

第1章: Policy Manager

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Policy Managerについて \(P. 7\)](#)

[Policy Managerポリシー \(P. 7\)](#)

[Policy Managerへのアクセス \(P. 9\)](#)

Policy Managerについて

CA Spectrum Policy Managerにより、分散 SpectroSERVER 環境内のすべてのモデルにわたってネットワーク管理ポリシーを適用できます。

SpectroSERVER の実行中にポリシー設定の追加、削除、または変更を行い、変更をすぐに適用することができます。CA Spectrum 内では Policy Manager によって管理ポリシーの適用が自動的に行われる所以、モデルが追加または変更されたときに手動で更新を行う必要がありません。

Policy Managerポリシー

ポリシーは CA Spectrum 属性設定から構成されており、これらを定義済みのモデルセットに適用すると、CA Spectrum はネットワーク管理設定を一貫して実装します。たとえば、すべてのルータポートモデルでのアラームしきい値を CA Spectrum で管理する方法を定義するポリシーを実装したとします。このポリシーはすべての既存のルータポートモデルで適用され、新しく作成された任意のルータポートモデルにも実装されます。

ポリシーは、以下のコンポーネントで構成されています。

- ポリシー定義

- ポリシールール
- ルール設定

ポリシー コンポーネントはすべて OneClick コンソールで設定および維持されます。

注: レガシーポリシーについては、XML ファイルを使用してポリシー定義を設定および維持することもできます。 詳細については、「[レガシーベースのポリシー \(P. 45\)](#)」を参照してください。

ポリシー定義

ポリシーは優先順位が付けられた一連のポリシールールです。優先度は、1 つのポリシー内でポリシールール用の複数のグローバルコレクションにモデルが存在する状況を処理します。

ポリシールール

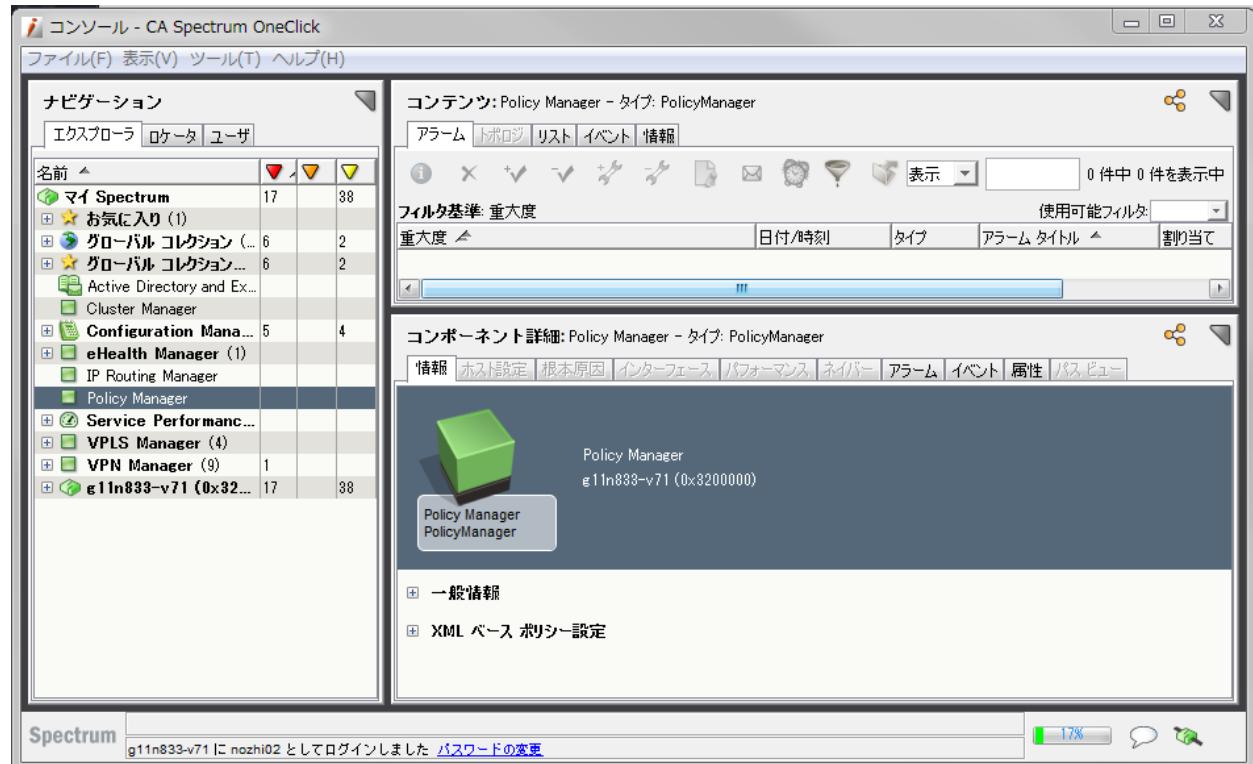
ポリシールールは、ルール設定のコレクションであり、それらが適用先のグローバルコレクションです。1 つのポリシーに対して複数のルールを定義できます。

ルール設定

ルール設定では、ポリシーが維持するモデル属性および属性値を定義します。 Policy Manager は事前定義済みのポリシー設定を提供し、たとえば、[パッシブボード監視]、[未接続ポートのポーリング]、[保守モード]、[10 分ポーリング]、[冗長を無効化] などがあります。事前定義済み設定がニーズを満たさない場合は、使用可能な属性のいずれかを使用して、独自の設定を定義することができます。ポリシールールがトリガされたときに定義済みウォッチをアクティブまたは非アクティブにすることができる SpectroWatch 設定を含めることも可能です。

Policy Manager へのアクセス

Policy Manager にアクセスするには、[エクスプローラ] タブの [Policy Manager] をクリックします。コンポーネント詳細画面内の [情報] タブに Policy Manager に関する情報が表示されます。



注: すべての定義済みポリシーはコンテンツ画面の [リスト] タブと [エクスプローラ] タブの [Policy Manager] の下に表示されます。 詳細については、「[ポリシーの表示 \(P. 23\)](#)」を参照してください。

コンポーネント詳細画面には以下のサブビューが含まれます。

- **一般情報** - [一般情報] サブビューには、モデルクラスやセキュリティ文字列など、Policy Manager に関する一般詳細情報が含まれます。
- **XML-ベース ポリシー設定** - このサブビューはレガシー ポリシーの維持に関する詳細が含まれます。 詳細については、「[レガシーの XML ベースのポリシー \(P. 45\)](#)」を参照してください。

第2章: ポリシーの作成

ポリシーは、ポリシー定義、1つ以上のポリシールール、およびルール設定から構成されます。ポリシーを適用するには、ポリシーを事前に有効にしておく必要があります。

注: レガシー ポリシーの場合は、XML ファイルを使用してポリシー定義を設定し維持します。詳細については、「[レガシーの XML ベースのポリシー \(P. 45\)](#)」を参照してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ポリシーについて \(P. 11\)](#)

[ポリシー定義を正常に計画する方法 \(P. 13\)](#)

[ポリシーの作成 \(P. 16\)](#)

[ポリシーの有効化および無効化 \(P. 22\)](#)

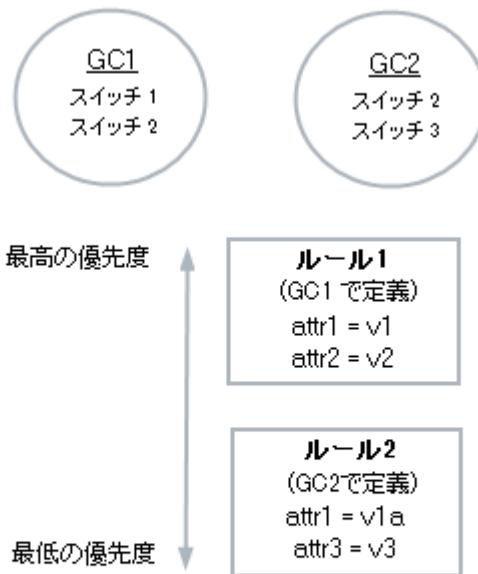
[ポリシーの表示 \(P. 23\)](#)

ポリシーについて

ポリシーでは、一連のポリシールールに対して、関連する属性のグループを定義します。1つ以上のルールを結合して、1つのポリシーを作成します。ポリシーの適用中にモデルに適用される設定は、複数のルールから得ることができます。ポリシー内でルール用の複数のグローバルコレクションに同一のモデルが存在する状況を処理するために、ルールには優先順位が付けられます。すべてのルールが徹底的に検討されるまで、各ルールは優先順に評価されます。モデルは、条件が最初に満たされたルールの設定を採用します。モデルが後続のルールの条件と一致した場合は、まだ検出されていない設定のみが適用されます。

たとえば、以下の図に、2つの異なるグローバルコレクション (GC1 および GC2) で定義されているポリシーについて説明しています。Switch1 は、GC1 に排他的に属し、Rule1 の設定のみが適用されます。Switch3 は、GC2 に排他的に属し、Rule2 の設定のみが適用されます。Switch2 は GC1 と GC2 の両方に属します。ルール優先度のために、Rule1 内の設定 (attr1 および attr2 が含まれる) が最初に適用されます。次に、このモデルにまだ適用されていない、Rule2 内の設定 (attr3 のみ) が適用されます。attr1 はこのモデルにすでに適用されているので無視されます。

ポリシー定義:



ポリシーの適用後:

Switch 1: attr1 = v1 attr2 = v2	Switch 2: attr1 = v1 attr2 = v2	Switch 3: attr1 = v1a attr3 = v3
------------------------------------	------------------------------------	-------------------------------------

ポリシーを有効にする必要があります。ポリシーおよび影響を受けるデバイスのモデルにおけるイベントおよびアラームによって、ポリシーのアクティビティと適用が追跡されます。

ポリシー定義を正常に計画する方法

サイトで実装されるポリシーを設計する場合は、以下のガイドラインを考慮します。

- 推奨されているポリシーを使用します。 詳細については、「[推奨するポリシー設定 \(P. 55\)](#)」を参照してください。
- 事前定義済み設定を使用します。 通常、ポリシーをセットアップする場合は、テンプレートを使用するのが最適な方法です。 テンプレート内の属性のコレクションから開始し、次に、必要に応じて属性および属性の値を調整します。
- 特定の条件に対処するポリシーを定義します。 ネットワーク内の問題を識別した場合は、問題の性質に基づいて監視する属性を検討します。
- 新しいポリシーをテスト環境で展開してから実稼働環境に移動します。 詳細については、「[ポリシーのエクスポートおよびインポート \(P. 43\)](#)」を参照してください。

例: Port Fault Management ポリシー

ポート ステータスを監視するポリシーをセットアップすると仮定します。すべてのスイッチ ポートをパッシブに監視し、すべてのルータ ポートをアクティブに監視します。「[推奨するポリシー設定 \(P. 55\)](#)」のレビューを基に、Port Fault Management ポリシーでこのポリシー シナリオが反映されることを確認します。このポリシーを実装するには、一連のポリシー ルールを定義します。

- ルール 1: すべてのスイッチ ポートを識別するための検索条件を指定するグローバルコレクションを定義します。次に、このグローバルコレクション内のすべてのデバイスで、パッシブ ポート監視テンプレートにあるパッシブ監視用の事前定義済み設定を使用することができます。必要に応じて属性値を調整します。
- ルール 2: すべてのルータ ポートを識別するための検索条件を指定するグローバルコレクションを定義します。次にコレクション内のすべてのデバイスで、ライブ パイプテンプレートに定義されているように、ライブ パイプを使用してポート ステータス監視用に事前定義済み設定を使用します。必要に応じて属性値を調整します。

これらの 2 つのポリシー ルールを組み合わせて、Port Fault Management ポリシーを作成します。次に、ポリシーを有効にして発効する必要があります。

注: Port Fault Management ポリシーおよびその他の推奨するポリシーについては、「[推奨するポリシー設定 \(P. 55\)](#)」を参照してください。

ポリシー定義の制限

ポリシーを定義する場合は以下の制限事項を考慮します。

- ポリシーが有効かどうかにかかわらず、複数のポリシーに同じ属性を含めることができません。
- 複数のルールが同じグローバルコレクションに適用される場合、それらのルールは同じ設定ターゲットを使用できません。1 つのルールを複数のグローバルコレクションに適用することはできますが、同じ設定ターゲットを使用する 2 つの異なるルールを同じグローバルコレクションに適用することはできません。

これらの制限を適所に配置することで、ポリシー定義内の競合を容易に防ぐことができます。

内部属性

Policy Manager は CA Spectrum 内部属性を変更および適用するように設計されていますが、特定の属性の変更については Policy Manager を使用しないでください。

一部の属性は CA Spectrum の動作を制御およびカスタマイズするために使用され、カスタマイズについてはドキュメントに説明があります。これらの属性は、結果が予測される場合、Policy Manager ポリシーに含めることができます。

他の属性 (Link_Condition 属性など) の値は、CA Spectrum モデル内で自動的に変化するか、またはステータスを示すだけとなります。これらの属性は、モデリングされたデバイスからポーリングされた場合、または値の計算に関与する他の属性変更に応じてポーリングされた場合に値を変更します。このような自動的な属性値への上書きは予測不能の動作につながる可能性があります。これらの属性を変更する場合は Policy Manager を使用しないでください。

外部属性

Policy Manager は、Spectrum 内部属性を適用するように設計されています。ポリシーに外部属性 (sysContact、sysLocation、または Firmware_version など) を指定できます。ただし、結果は内部属性の場合と以下のように異なります。

- 読み取り/書き込みコミュニティ文字列を使用してデバイスをモデリングした場合、ポリシー内の属性値はデバイスに書き込まれます。
- 読み取り専用コミュニティ文字列を使用してデバイスをモデリングした場合、書き込みは失敗します。
- SpectroSERVER には書き込みロックがありません。外部属性は OneClick または SpectroSERVER によって変更できます。
- デバイス上の属性は他の手段 (デバイスとの telnet/ssh など) によって変更することもできます。次回ポリシーを再度有効化すると、ポリシー内の属性値が再度適用されます。

ポリシーの作成

OneClick コンソールを使用してポリシーを作成できます。ポリシーを作成する場合は少なくとも 1 つのルールを定義します。必要に応じて、追加のルールと設定を後で追加できます。

次の手順に従ってください:

1. [エクスプローラ] タブで [設定マネージャ] をクリックします。
コンテンツ画面とコンポーネント詳細画面に Policy Manager に関する情報が表示されます。
2. コンテンツ画面で [リスト] タブをクリックします。
既存のポリシーのリストが表示されます。
3.  をクリックします。
[ポリシーの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
4. [ポリシー名] フィールドに、このポリシーの名前を入力します。
5. 以下の手順に従ってポリシーのルールを作成します。
 - a.  をクリックします。
[ルールの設定] ダイアログ ボックスが開きます。
 - b. [ルール名] フィールドに、このルールの名前を入力します。
 - c. [参照] をクリックします。
[グローバルコレクションの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - d. このポリシー用のグローバルコレクションを選択し、左側の [適用先] リストにそれらを移動させて、[OK] をクリックします。
注: [作成] ボタンを使用すれば、[グローバルコレクションの選択] ダイアログ ボックスから直接的にグローバルコレクションを作成できます。グローバルコレクションの作成および維持については、「IT インフラストラクチャのモデリング/管理 - 管理者ガイド」を参照してください。

e. ルール設定を定義します。ルール設定では、ポリシーで使用されるモデル属性および属性値を定義します。以下の1つ以上の方法を使用します。

-  - [新しいカスタム設定を作成する \(P. 18\)](#)
-  - [SpectroWatch をアクティブ/非アクティブにする \(P. 19\)](#)
-  - [テンプレートから事前定義の設定を選択する \(P. 20\)](#)

注: ポリシーが有効かどうかにかかわらず、複数のポリシーに同じ属性を含めることができます。

f. [OK] をクリックします。

[関連するルール] のリストにルールが追加され、ルールを選択すると、[ルール設定] ウィンドウにルールに関する設定が表示されます。

6. 必要に応じて、手順5を繰り返して、ポリシーにルールを追加します。

注:

- 既存のルールをコピーするには、ルールのコピー ボタンをクリックします。
- 複数のルールが同じグローバルコレクションに適用される場合、それらのルールは同じ設定ターゲットを使用できません。ルールをコピーする場合はグローバルコレクションの指定を変更します。

7. すべてのルールが義されたら、ツールバー上の上向き矢印または下向き矢印を使用して、リスト内でルールの優先順位を調整します。ルールはリスト内で上にあればあるほど、優先度は高くなります。

ルールがリスト内で調整され、優先値が適宜変更されます。

8. (オプション) ポリシーの作成時にポリシーを有効にして適用するには、[作成時にポリシーを有効化] を選択します。

注: ポリシーは後で有効にすることもできます。詳細については、「[ポリシーの有効化および無効化 \(P. 22\)](#)」を参照してください。

9. [OK] をクリックします。

ポリシーが作成され、[ポリシーの設定] ダイアログ ボックスが閉じます。コンテンツ画面の [リスト] タブと [エクスプローラ] タブの [Policy Manager] の下に、新しいポリシーが表示されます。作成時にポリシーを有効にしてある場合は、ポリシーが適用されます。

カスタム ルール設定の作成

カスタム ルール設定を作成することにより、ポリシー ルールでモデルの属性および値に関して固有の選択内容を指定できます。

注: Policy Manager はまた、事前定義済みの設定が含まれるテンプレートを提供します。詳細については、「[事前定義済みルール設定の追加 \(P. 20\)](#)」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. [ルールの設定] ダイアログ ボックスで  をクリックします。
[属性設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [設定名] フィールドに、このルール設定の名前を入力します。
3. 以下のいずれかのタスクを使用して属性を指定します。
 - [属性] ドロップダウン リストから属性を選択します。
 - [属性] ボタンをクリックし、[属性セレクタ] ダイアログ ボックスから属性を選択し、[OK] をクリックします。選択した属性が [属性] フィールドに表示されます。
4. 以下のいずれかの方法を使用して、[属性値] フィールドに値を入力します。使用可能な方法は、属性に応じて変化します。
 - デフォルト値をそのまま使用します。
 - ドロップダウン リストから属性を選択します。
 - [参照] ボタンを使用します。
 - 値を手動で入力します。

5. [OK] をクリックします。
選択した属性とその値を、[ルール設定] リストに追加します。
6. 手順 1 ~ 5 を繰り返して、より多くのカスタムルール設定を追加します。

SpectroWatch 設定の追加

SpectroWatch 設定をポリシーに含めると、ポリシールールがトリガされたときに定義済みウォッチをモデル単位でアクティブまたは非アクティブにすることができます。

モデルタイプの任意の属性（内部属性と外部属性が両方とも含まれる）でウォッチを設定できます。たとえば、「接続ステータス」または「パケットの合計」にログウォッチを設定できます。1つの属性に複数のウォッチを設定することもできます。たとえば、デバイスのパケットレートに2つのしきい値ウォッチを設定することができます。

- 値が 10,000 を超えたときに黄色のアラームを生成するためのものが1つ
- 値が 15,000 を超えたときに赤色のアラームを生成するためのものが1つ

注: SpectroWatches の操作については、「ウォッチユーザガイド」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. [ルールの設定] ダイアログボックスで  をクリックします。
[ウォッチ設定] ダイアログボックスが表示されます。
2. [設定名] フィールドに、このルール設定の名前を入力します。
3. ドロップダウンリストから SpectroWatch 値を選択します。

アクティブ

ルールがトリガされた場合に SpectroWatch をアクティブにします。

非アクティブ

ルールがトリガされた場合に、SpectroWatch を非アクティブにします。

4. 以下のいずれかのタスクを使用して、ウォッチを指定します。
 - [モデルタイプ] をクリックし、[モデルタイプの選択] ダイアログ ボックスから値を選択し、[OK] をクリックします。
 - [モデルタイプ] ドロップダウンリストから値を選択します。
'SpectroWatch' のモデルタイプ値には CA Spectrum 内部のウォッチも含まれます。

リストには使用可能なウォッチが入力されます。

注: リストに入力されまで時間がかかることがあります。
5. このポリシールールに追加する SpectroWatches を選択します。
6. [OK] をクリックします。

選択した SpectroWatches が [ルール設定] リストに追加されます。

7. 手順 1 ~ 6 を繰り返して、さらに SpectroWatch 設定を追加します。

事前定義済みルール設定の追加

Policy Manager は、ポリシールールに追加可能な事前定義済みポリシー設定が含まれるテンプレートを提供します。テンプレートには、特定の目的のために関連する属性および属性値が複数含まれます。たとえば、アラームしきい値設定テンプレートには、特定のデバイスまたはポートモデルでアラームしきい値を管理するのに使用できるアラーム関連の属性が含まれます。

注: Policy Manager ではルール内にカスタム設定を指定することもできます。 詳細については、「[カスタムルール設定の作成 \(P. 18\)](#)」を参照してください。

次の手順に従ってください:



1. [ルールの設定] ダイアログ ボックスで をクリックします。

[テンプレートの選択] ダイアログ ボックスが開き、使用可能なテンプレートがすべて表示されます。事前定義済みテンプレートの 'CA' の値は [タイプ] フィールドにあります。

注: [タイプ] フィールドに **PolicyRule** の値を持つテンプレートは、このポリシー用にすでに作成されているユーザ定義ルールです。同じポリシー内にある複数の異なるグローバルコレクションに対して同じ設定を割り当てる場合は、これらのルールをテンプレートとして使用できます。

2. ポリシー ルールで使用したい属性が含まれるテンプレートを選択します。

注: テンプレートの説明を完全に参照するには、テンプレートの説明 フィールドをロールオーバします。

選択したテンプレートを構成する属性は、[ルール設定] セクションにリスト表示されます。

3. [OK] をクリックします。

[テンプレートの選択] ダイアログ ボックスが閉じて、選択したテンプレートを構成する属性が [ルール設定] リストに表示されます。任意のデフォルト属性値が [値] 列に表示されます。

4. 属性値を変更または定義します。ルールを保存するには、事前に各設定に属性値が必要です。



- a. [ルール設定] リストの属性を選択し、 をクリックします。

[属性設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

- b. [属性値] フィールドに値を入力します。属性に応じて、ドロップダウンリストから選択するか、[参照] ボタンを使用するか、または値を手動で入力します。

- c. [OK] をクリックします。

[属性設定] ダイアログ ボックスが閉じて、その設定の [値] 列に属性値が表示されます。

- d. 必要ならば、手順 4 を繰り返して、すべてのルール設定について属性値を変更するか定義します。

5. 手順 1 ~ 4 を繰り返して、さらに事前定義済み設定を追加します。

ポリシーの有効化および無効化

ポリシーがその定義済みネットワーク管理設定を適用するには、ポリシーを有効にする必要があります。さらに、ポリシーの編集または削除を行うには、あるいはポリシー定義をエクスポートするには、ポリシーは無効にする必要があります。

注: レガシーの XML ベースのポリシーを有効化または無効化するには、ポリシー定義 XML を変更して再ロードするしかありません。 詳細については、「[レガシーの XML ベースのポリシー \(P. 45\)](#)」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. [エクスプローラ] タブで Policy Manager ノードを展開します。

[エクスプローラ] タブで Policy Manager ノードの下にポリシーが表示されます。有効になったポリシーはアイコンが緑色となり、無効になったポリシーはアイコンがグレーになります。

2. コンテンツ画面で [リスト] タブを選択します。

使用可能なポリシーのリストが表示されます。 [有効] 列のチェックマークは、ポリシーが有効であることを示します。

3. 有効または無効にするポリシーを選択します。
4. 以下のタスクのいずれかを実行します。

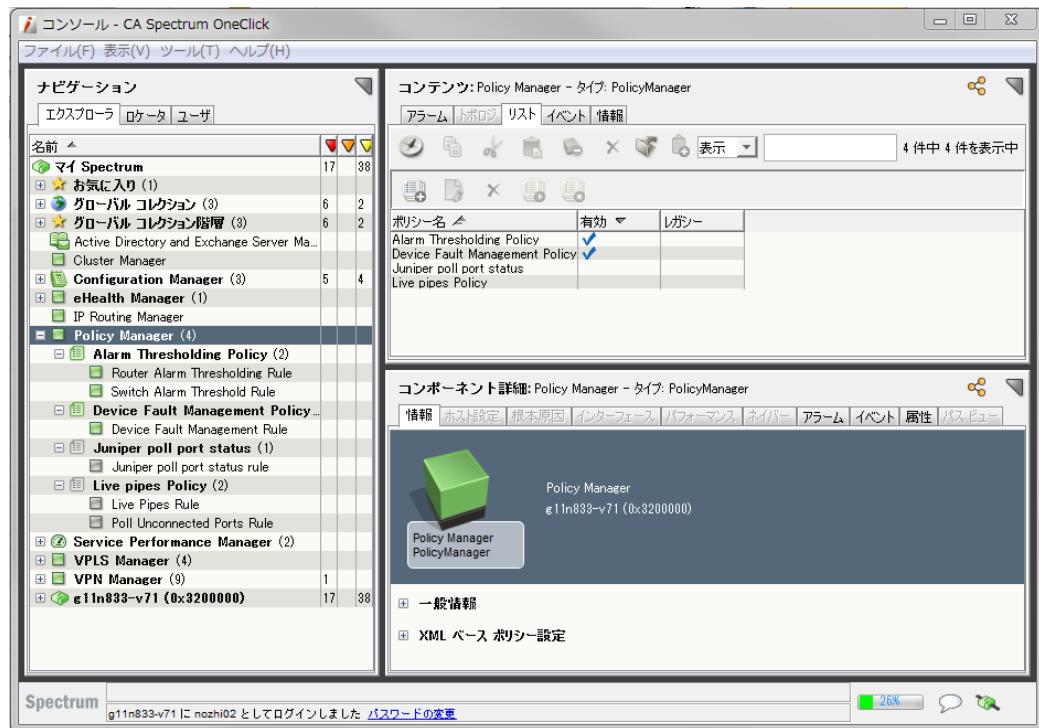
-  をクリックして、選択した 1 つまたは複数のポリシーを有効にします。
-  をクリックして、選択した 1 つまたは複数のポリシーを無効にします。

[有効] 列にチェックマークが表示される、非表示になります。

注: 特定のポリシーの [一般情報] サブビューの [有効] フィールドを使用して、ポリシーを有効または無効にすることもできます。

ポリシーの表示

定義済みポリシーはコンテンツ画面の [リスト] タブと [エクスプローラ] タブの [Policy Manager] の下に表示されます。



[エクスプローラ] タブで、有効なポリシーとそれに関連付けられたルールのアイコンは緑色です。無効なポリシーおよびルールのアイコンはグレーです。

すべてのポリシーの表示

以下手順では、既存のポリシーをすべて表示する方法について説明します。

次の手順に従ってください:

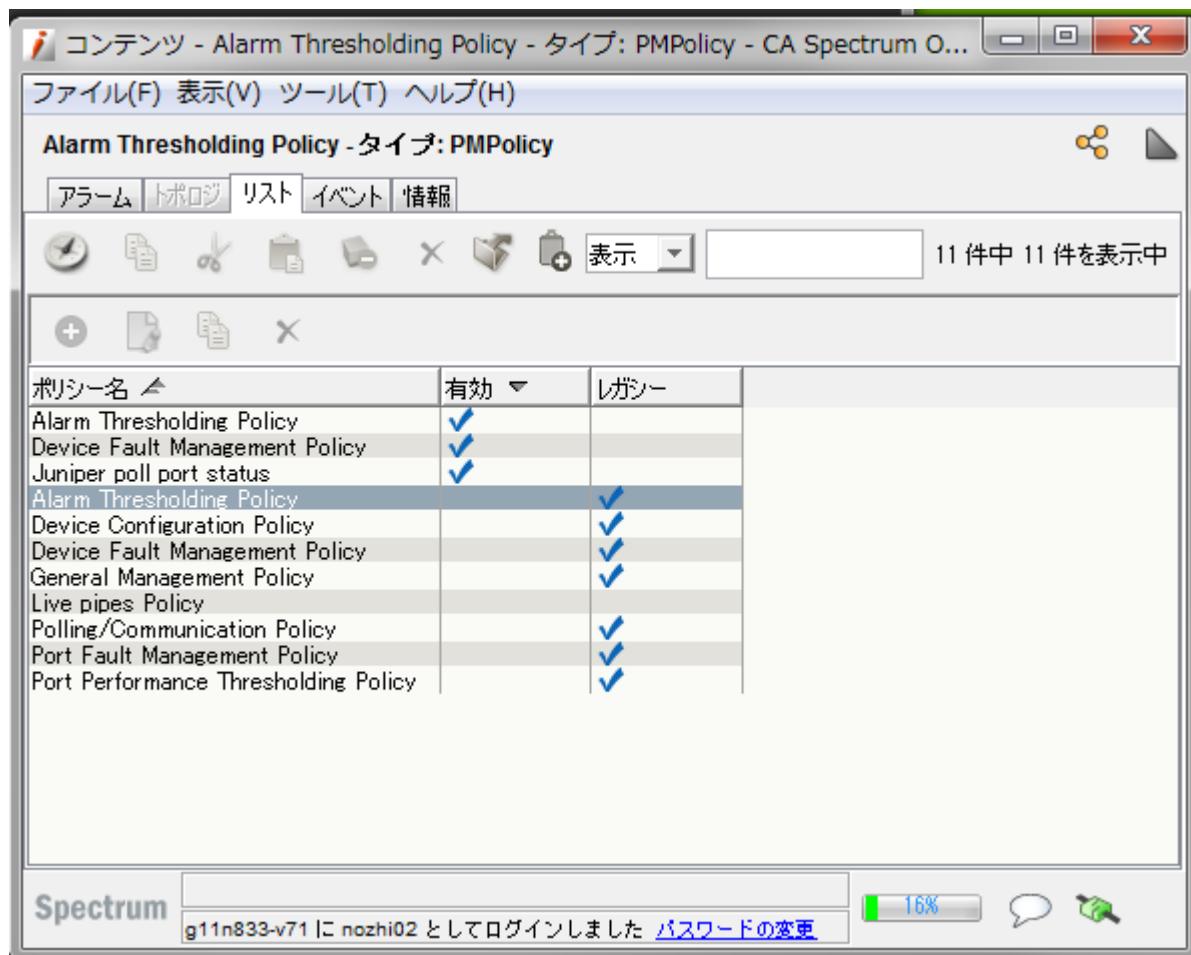
1. [エクスプローラ] タブで [設定マネージャ] をクリックします。

コンテンツ画面とコンポーネント詳細画面に Policy Manager に関する情報が表示されます。

2. コンテンツ画面で [リスト] タブをクリックします。

既存のポリシーのリストが表示されます。このビューから、ポリシーを作成できるほか、非レガシー ポリシーの編集、削除、有効化、および無効化を行うことができます。

注: レガシーの XML ベースのポリシーの編集、削除、有効化、または無効化を行うには、ポリシー定義 XML を変更し再ロードするしかありません。詳細については、「[レガシーの XML ベースのポリシー \(P. 45\)](#)」を参照してください。



ポリシー名	有効	レガシー
Alarm Thresholding Policy	✓	
Device Fault Management Policy	✓	
Juniper poll port status	✓	
Alarm Thresholding Policy		✓
Device Configuration Policy	✓	
Device Fault Management Policy	✓	
General Management Policy	✓	
Live pipes Policy		
Polling/Communication Policy	✓	
Port Fault Management Policy	✓	
Port Performance Thresholding Policy	✓	

注: [ロケータ] タブの [Policy Manager] 、 [すべてのポリシー] を使用して、すべてのポリシーを表示することもできます。

グローバルコレクションによるポリシーの表示

特定のグローバルコレクションに適用されるポリシーを表示できます。

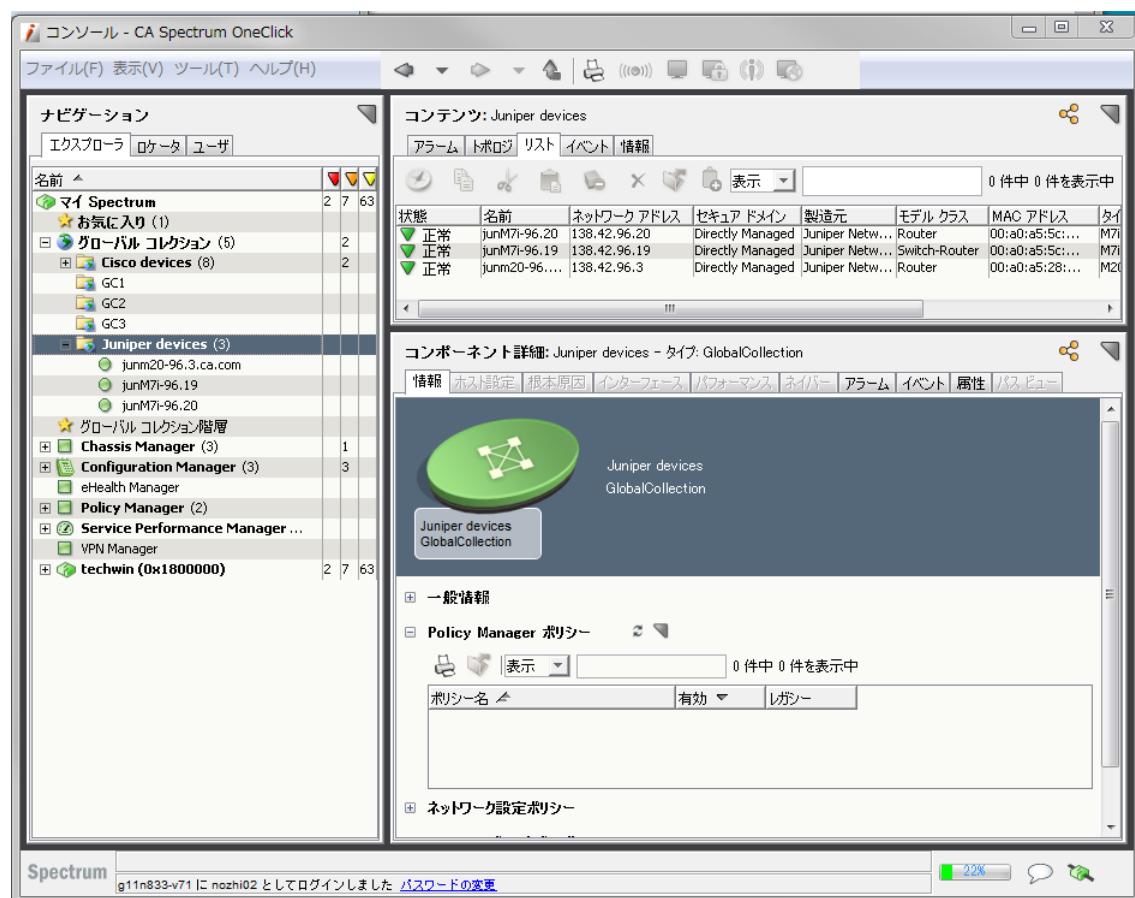
次の手順に従ってください:

1. [エクスプローラ] タブで、Policy Manager ポリシーを表示するグローバルコレクションを選択します。

グローバルコレクションに関する情報がコンテンツ画面とコンポーネント詳細画面に表示されます。

2. コンポーネント詳細画面の [情報] タブ内で [Policy Manager ポリシー] サブビューを展開します。

既存のポリシーのリストによって、有効なポリシーとレガシー ポリシーが明らかになります。



ポリシー情報の表示

特定のポリシーの詳細を表示するには、[Policy Manager] ノードの下の [エクスプローラ] タブにあるポリシーを選択します。コンテンツ画面およびコンポーネント詳細画面がポリシーに関する情報で更新されます。

コンソール - CA Spectrum OneClick

ファイル(F) 表示(V) ツール(T) ヘルプ(H)

ナビゲーション

エクスプローラ ロケータ ユーザ

名前	優先度	ルール名	親ポリシー
マイ Spectrum	17	38	
お気に入り (1)			
グローバル コレクション (3)	6	2	
グローバル コレクション階層 (3)	6	2	
Active Directory and Exchange Server ...			
Cluster Manager			
Configuration Manager (8)	5	4	
eHealth Manager (1)			
IP Routing Manager			
Policy Manager (2)			
Juniper poll port status (1)			
Juniper poll port status rule			
Live pipes Policy (2)			
Live Pipes Rule			
Poll Unconnected Ports Rule			
Service Performance Manager (2)			
VPLS Manager (4)			
VPN Manager (9)	1		
g11n833-v71 (0x3200000)	17	38	

コンテンツ: Live pipes Policy - タイプ: PMPolicy

アラーム トポジ リスト イベント 情報

操作	ルール名	親ポリシー
+	Live Pipes Rule	Live pipes Policy
	Poll Unconnected Ports Rule	Live pipes Policy

コンポーネント詳細: Live pipes Policy - タイプ: PMPolicy

情報 ホスト設定 根本原因 インターフェース パフォーマンス ネイバー アラーム イベ...

Live pipes Policy
PMPolicy

一般情報

状態 正常 ランドスケープ 有効

モデル クラス User Customization

作成時間 2013/09/04 23:07:21 JST

セキュリティ文字列 設定

関連するルール

表示 2 件中 2 件を表示中

優先度	ルール名	親ポリシー
1	Live Pipes Rule	Live pipes Policy
2	Poll Unconnected Ports Rule	Live pipes Policy

グローバル コレクション

以下のテーブルには、このポリシー内のルールが適用されるグローバルコレクションが含まれます

名前	子の数	更新間隔(時間)	説明
日本語テスト	1	24	

Spectrum

g11n833-v71 | nozhi02 としてログインしました [パスワードの変更](#)

コンテンツ画面の【リスト】タブには、優先度、名前、グローバルコレクション、および親ポリシーなど、選択したポリシー用のルールに関する情報が含まれます。

コンポーネント詳細画面内の【情報】タブには、以下のサブビューが含まれます。

一般情報

セキュリティ文字列やポリシーの有効化の有無など、ポリシーに関する情報が含まれます。

グローバルコレクション

このポリシーが適用されるグローバルコレクションをリスト表示します。

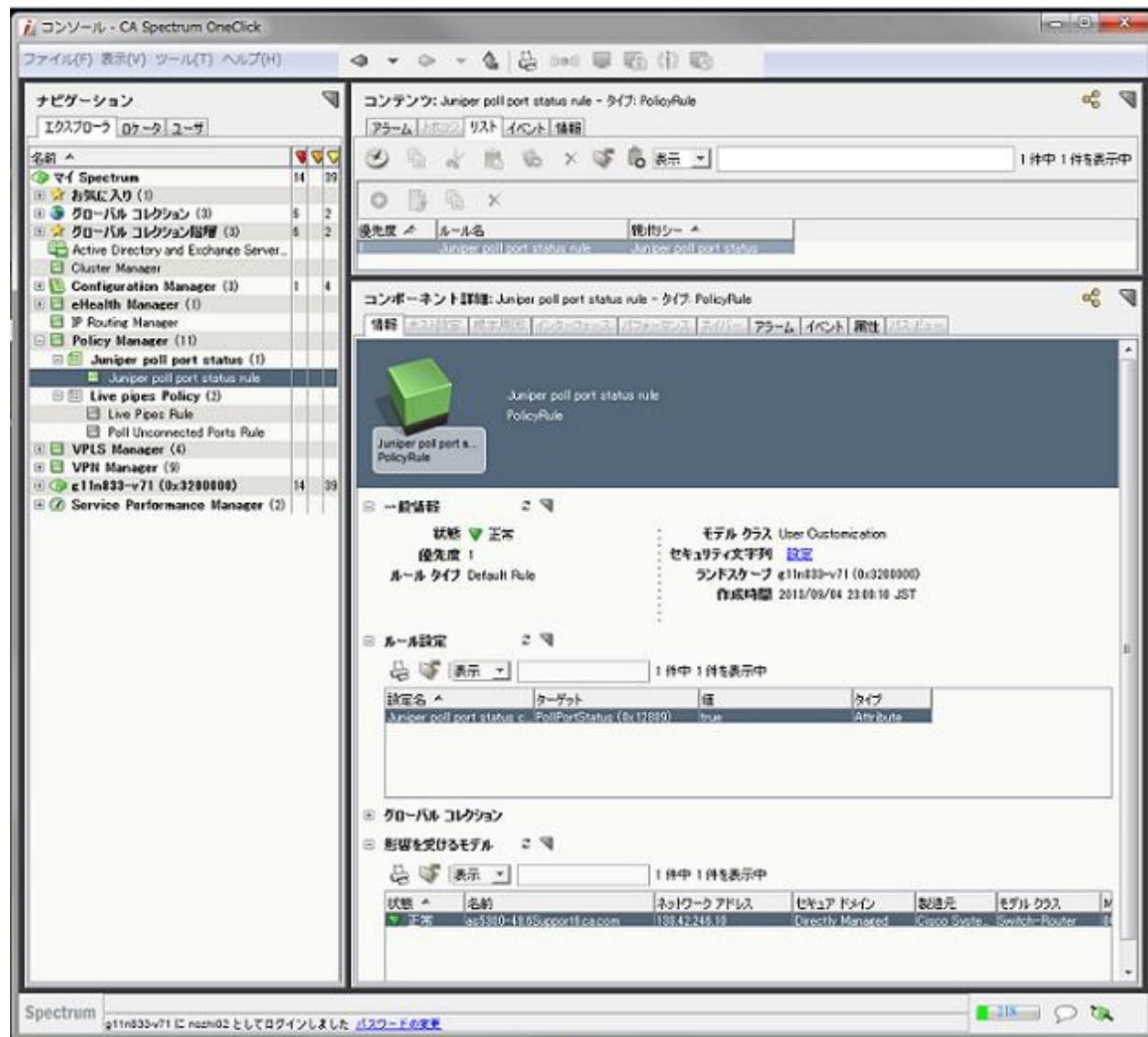
関連するルール

ポリシーのルールをリストします。

ポリシー ルール情報の表示

ポリシー ルールの詳細を表示するには、[エクスプローラ] タブでルールを選択します。ルールは [Policy Manager] ノード内のポリシーの下にあります。コンテンツ画面とコンポーネント詳細画面が、ルールに関する情報で更新されます。

注: すべてのルールを表示するには、[ロケータ] タブの [Policy Manager]、[すべてのルール] を使用します。



コンテンツ画面内の [リスト] タブには、優先度、名前、グローバルコレクション、親ポリシーなど、親ポリシーのルールに関する情報が含まれます。

コンポーネント詳細画面内の [情報] タブには、以下のサブビューが含まれます。

一般情報

優先度、優先順位が適用されるグローバルコレクション、およびセキュリティ文字列など、ルールに関する情報が含まれます。

ルール設定

このポリシールールのルール設定をリスト表示します。

影響を受けるモデル

このポリシールールの影響を受けるモデルをリスト表示します。

注: この情報が存在する場合は、ポリシーを有効にする必要があります。

[ロケータタブ]からの検索

Policy Manager では、CA Spectrum 内の既存のポリシーおよびルールを検索するために検索条件オプションを複数提供しています。 [エクスプローラ] タブでポリシーを表示することに加えて、[ロケータ] タブ内の特定のポリシーおよびルールを検索できます。

注: OneClick の検索オプションおよび設定オプションの詳細については、「オペレータガイド」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. ポリシーまたはルールをすべて表示するには、以下の手順に従います。
 - a. [ロケータ] タブ内で [Policy Manager] フォルダを展開します。
 - b. 必要に応じて、[すべてのポリシー] または [すべてのルール] オプションをダブルクリックして、検索を起動します。
 - c. [検索するランドスケープの選択] ダイアログボックスで適切なランドスケープ情報を指定し、[OK] をクリックします。

コンテンツ画面に表示された検索結果が [結果] タブに表示されます。

2. 条件ベースのポリシーまたはルールの検索については以下の手順に従います。
 - a. [ロケータ] タブ内で [Policy Manager] フォルダを展開します。
 - b. 必要に応じて、[ポリシーの分類] または [ルールの分類] フォルダを展開します。
 - c. 実行する、条件に基づく検索のタイプを選択します。
 - d. 検索ボタンをクリックします。

注: 選択した検索によっては、検索を実行する前に、[検索] ダイアログ ボックスに値を入力するように求められます。

[結果] タブには、コンテンツ画面内の検索結果が表示されます。

第3章: ポリシーの編集

ポリシーネーム、ポリシー用のルール、およびルール設定を変更できます。以下のトピックでは、これらのタスクを実行する方法について説明します。

注:

- 適切な権限を持つユーザのみがポリシーを編集できます。詳細については、「[Policy Manager の権限 \(P. 69\)](#)」を参照してください。
- ポリシーによって影響を受けるデバイスまたはポートのモデルを変更するには、ポリシーではなくグローバルコレクションを編集します。グローバルコレクションの作成および維持については、「[IT インフラストラクチャのモデリング/管理 - 管理者ガイド](#)」を参照してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ポリシーの編集 \(P. 33\)](#)

[ポリシールールの編集 \(P. 34\)](#)

[ルール設定の編集 \(属性値\) \(P. 35\)](#)

[ポリシーの削除 \(P. 36\)](#)

[ポリシールールの削除 \(P. 37\)](#)

ポリシーの編集

以下手順では、ポリシーを編集する方法について説明します。

注:

- ポリシーを編集するには、そのポリシーを事前に無効にしておく必要があります。詳細については、「[ポリシーの有効化および無効化 \(P. 22\)](#)」を参照してください。
- レガシーの XML ベースのポリシーを編集するには、ポリシー定義 XML を変更し再ロードするしかありません。詳細については、「[レガシーの XML ベースのポリシー \(P. 45\)](#)」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. [エクスプローラ] タブで [設定マネージャ] をクリックします。

コンテンツ画面とコンポーネント詳細画面に Policy Manager に関する情報が表示されます。

2. コンテンツ画面で [リスト] タブをクリックします。
ポリシーのリストが表示されます。
3. 編集対象のポリシーを選択し、 をクリックします。
[ポリシーの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
4. 必要に応じて、「[ポリシーの作成 \(P. 16\)](#)」での説明に従ってポリシーを変更します。
5. [OK] をクリックします。
ポリシーが更新され、[ポリシーの設定] ダイアログ ボックスは閉じます。
6. 必要に応じて、ポリシーを有効にします。
更新した設定が適用されます。

ポリシー ルールの編集

ポリシー全体を編集せずに、特定のポリシールールとその設定を編集することができます。ポリシールールのいずれかを編集するには、親ポリシーを無効にする必要があります。以下手順では、既存のポリシールールを編集する方法について説明します。

注:

- ポリシーのルールを編集するには、事前に該当するポリシーを無効にしておく必要があります。詳細については、「[ポリシーの有効化および無効化 \(P. 22\)](#)」を参照してください。
- レガシーの XML ベースのポリシールールを編集するには、ポリシー定義 XML を変更し再ロードするしかありません。詳細については、「[レガシーの XML ベースのポリシー \(P. 45\)](#)」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. [エクスプローラ] タブで、変更するルールを選択します。

注: [エクスプローラ] タブで、変更するルールの親ポリシーを選択することもできます。

選択したルールおよびポリシーに関する情報が、コンテンツ画面およびコンポーネント詳細画面に表示されます。

2. コンテンツ画面で [リスト] タブをクリックします。
親ポリシーのルールのリストが表示されます。
3. 編集のためのルールを選択し、以下のタスクを1つ以上を実行します。

-  - ポリシーへのルールの追加
-  - 選択したルールの変更
-  - 選択したルールのコピー

[ルールの設定] ダイアログ ボックスが開きます。

4. 必要があれば「[ポリシーの作成 \(P. 16\)](#)」の説明に従って、ルールを作成または変更します。

注: 属性値を変更するには、[ルールの設定] ダイアログ ボックスの
[ルール設定] パネルで  をクリックします。

5. [OK] をクリックします。
ルールが更新され、[ルールの設定] ダイアログ ボックスが閉じます。
6. 必要に応じて、親ポリシーを有効にします。
更新した設定が適用されます。

ルール設定の編集(属性値)

ルール自体を編集することにより、属性値を編集します。 詳細については、「[ポリシールールの編集 \(P. 34\)](#)」を参照してください。

ポリシーの削除

以下の手順では、ポリシーを削除する方法について説明します。ポリシーを削除すると、ルールとルール設定もすべて削除されます。

注:

- ポリシーを削除するには、事前にポリシーを無効にしておく必要があります。詳細については、「[ポリシーの有効化および無効化 \(P. 22\)](#)」を参照してください。
- レガシーの XML ベースのポリシーを削除するには、ポリシー定義 XML を変更し再ロードするしかありません。詳細については、「[レガシーの XML ベースのポリシー \(P. 45\)](#)」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. [エクスプローラ] タブで [設定マネージャ] をクリックします。
コンテンツ画面とコンポーネント詳細画面に Policy Manager に関する情報が表示されます。
2. コンテンツ画面で [リスト] タブをクリックします。
ポリシーのリストが表示されます。
3. 削除するポリシーを選択し、 をクリックします。
[ポリシーの削除] 確認ダイアログ ボックスが開きます。
4. [はい] をクリックします。
ポリシー、ポリシーに関連付けられたルール、およびルール設定が削除されます。

ポリシー ルールの削除

以下手順では、ポリシー ルールを削除する方法について説明します。ポリシー ルールを削除すると、そのルールのルール設定も削除されます。

注:

- ポリシールールのいずれかを削除するには、事前に親ポリシーを無効にしておく必要があります。詳細については、「[ポリシーの有効化および無効化 \(P. 22\)](#)」を参照してください。
- レガシーの XML ベースのポリシールールを削除するには、ポリシー定義 XML を変更し再ロードするしかありません。詳細については、「[レガシーの XML ベースのポリシー \(P. 45\)](#)」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. [エクスプローラ] タブで削除されるルールを選択します。
注: [エクスプローラ] タブで、削除するルールの親ポリシーを選択することもできます。

選択したルールおよびポリシーに関する情報が、コンテンツ画面およびコンポーネント詳細画面に表示されます。

2. コンテンツ画面で [リスト] タブをクリックします。
親ポリシーのルールのリストが表示されます。
3. 削除するルールを選択し、 をクリックします。
[ルールの削除] 確認ダイアログ ボックスが開きます。
4. [はい] をクリックします。
ルールとそのルール設定が削除されます。ルールの優先値が適宜調整されます。

第4章: ポリシーの管理

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ポリシーの適用を確認する方法 \(P. 39\)](#)

[イベントとアラーム \(P. 39\)](#)

[ポリシーのエクスポート \(P. 40\)](#)

[ポリシーのインポート \(P. 43\)](#)

ポリシーの適用を確認する方法

Policy Manager ポリシーが有効化されたら、以下の方法で、その適用結果を確認できます。

- 生成されたイベントおよびアラームがあるかどうかを確認します。ルールを適用できない場合（デバイスに属性値を書き込むことができない場合など）、モデルでイベントが生成されます。詳細については、「[イベントとアラーム \(P. 39\)](#)」を参照してください。
- ルールの [影響を受けるモデル] サブビューを確認します。ルールの適用によって影響を受けるモデルがすべてリスト表示されます。詳細については、「[ポリシールール情報の表示 \(P. 29\)](#)」を参照してください。

イベントとアラーム

CA Spectrum は、イベントおよびアラームを生成して、Policy Manager アクティビティをユーザに通知します。

イベントはたとえば以下のようない状況で生成されます。

- 機能が有効化または無効化された場合。
- ルールが正常に適用された場合。
- デバイスに属性値を書き込むことができない場合のように、ルールを適用できない場合。
- レガシーの XML ベースのポリシーがロードされたとき、またはロードが試行されたとき。再ロード中に発生したエラーはイベントに記録されます。

アラームは、レガシーの XML ベースのポリシーが再ロードされる場合に発生するエラーを解析するために生成されます。

ポリシーのエクスポート

CA Spectrum Modeling Gateway を使用して、Policy Manager ポリシーをエクスポートおよびインポート (P. 43)することができます。この機能は、ポリシーをテスト環境で展開してから実稼働環境に移行する場合に役に立ちます。関連する Policy Manager モデル、ポリシー、ルール、権限、およびテンプレートがすべて含まれます。

注: Modeling Gateway の使用の詳細については、「Modeling Gateway Toolkit ガイド」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. Policy Manager ポリシーのエクスポート元（すなわち、すべてのポリシーが存在する場所）である SpectroSERVER を選択します。分散 SpectroSERVER 環境では、ポリシーは、それが関連付けられているグローバルコレクションにもありますが、すべての SpectroSERVER に存在するとは限らない場合があります。

注: SpectroSERVER にポリシーのグローバルコレクションをすべて存在させることにより、SpectroSERVER にポリシーを一時的に存在させることもできます。

2. 選択した SpectroSERVER で、Modeling Gateway ツールキット XML ファイルを変更して、エクスポートするものを指定します。

- a. 次のファイルを編集用に開きます。

```
<$SPECROOT>/SS-Tools/.modelinggatewayresource.xml
```

- b. ExportConfiguration タグを見つけて、以下の編集を行います。

- export_policy_manager および export_global_collections の値を 'true' に設定します。

注: Modeling Gateway を使用する場合、特定のポリシーまたはグローバルコレクションを選択してエクスポートすることはできません。ポリシーおよびグローバルコレクションがすべてエクスポートされます。

- これ以外のエクスポートを回避するには、他の値をすべて 'false' に設定します。

- c. ファイルを保存して閉じます。

3. 次のディレクトリにある Modeling Gateway コマンドラインツール (modelinggateway) を使用して Policy Manager ポリシーをエクスポートします。

- Solaris/Linux の場合 :

```
<$SPECROOT>/SS-Tools>./modelinggateway -vnm vnm_name -e  
export_file
```

- Windows の場合 :

```
<$SPECROOT>/SS-Tools>modelinggateway.bat -vnm vnm_name -e  
export_file  
vnm_name
```

SpectroSERVER ホストの名前です。

export_file

出力ファイルの名前です。

エクスポート処理が開始します。メッセージによって各種モデルのエクスポートの成功が示されます。<\$SPECROOT>/SS-Tools ディレクトリに次の 2 つのファイルが作成されます。

- *export_file.log* – 任意のエラー情報が含まれます。
- *export_file.xml* – エクスポートした Policy Manager データが含まれます。

4. *export_file.xml* のコンテンツを調べて、予期しているポリシー、ルール、設定、および関連付けがすべて含まれていることを確認します。

ポリシーのインポート

CA Spectrum Modeling Gateway を使用して Policy Manager ポリシーを [エクスポート](#) (P. 40) およびインポートできます。この機能は、ポリシーをテスト環境で展開してから実稼働環境に移行する場合に役に立ちます。関連する Policy Manager モデル、ポリシー、ルール、権限、およびテンプレートがすべて含まれます。

注: Modeling Gateway の使用の詳細については、「Modeling Gateway Toolkit ガイド」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. OneClick コンソールで、インポートされたポリシーに置き換えられる、 SpectroSERVER に存在するポリシーを無効にし削除します。 詳細については、「[ポリシーの有効化および無効化](#) (P. 22)」および「[ポリシーの削除](#) (P. 36)」を参照してください。
2. [エクスポート手順](#) (P. 40) で生成された `export_file.xml` の内容を確認します。インポートする予定のポリシー、ルール、設定、および関連付けがすべて含まれていることを確認します。
3. 次のディレクトリにある Modeling Gateway コマンドラインツール (`modelinggateway`) を使用して Policy Manager ポリシーをインポートします。

- Solaris/Linux の場合 :

```
<$SPECROOT>/SS-Tools>./modelinggateway -vnm vnm_name -i  
export_file.xml
```

- Windows の場合 :

```
<$SPECROOT>/SS-Tools>modelinggateway.bat -vnm vnm_name -i  
export_file.xml
```

vnm_name

SpectroSERVER ホストの名前です。

export_file.xml

エクスポートしたポリシーデータが含まれるファイルの名前です
インポート処理が開始します。メッセージによって、各種モデルのインポートの成功が示されます。

4. ポリシー情報がすべて正しくインポートされたことを OneClick コンソールで確認します。詳細については、「[ポリシーの表示 \(P. 23\)](#)」を参照してください。
5. 必要に応じて、ポリシーを有効にします。詳細については、「[ポリシーの有効化および無効化 \(P. 22\)](#)」を参照してください。

第 5 章: レガシーの XML ベースのポリシー

以前の CA Spectrum リリースでは、XML ファイルを排他的に使用して、Policy Manager ポリシーおよびルールを開発および維持することができました。この CA Spectrum リリースでは、OneClick コンソール インターフェースへの最小限の統合によって、これらのレガシーの XML ベースのポリシーを引き続きサポートします。このセクションのトピックは、レガシー ポリシーから新しい OneClick コンソールベースのポリシーに移行する際に役に立ちます。

重要: Policy Manager でポリシーを作成し維持する場合は、CA Spectrum OneClick コンソールを使用することが推奨されサポートされています。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[XML ベースのポリシーの維持 \(P. 45\)](#)

[XML ベースのポリシーから OneClick コンソールベースのポリシーへの移行 \(P. 46\)](#)

XML ベースのポリシーの維持

XML ベースのポリシーを作成し、変更し、維持する方法の説明および手順については、CA Spectrum ドキュメントの以前のリリースに詳しく記載されています。OneClick コンソールベースのポリシーへの移行が完了している XML ユニットを維持するための詳細については、以前のリリースで提供されるドキュメントを参照してください。

XML ベースのポリシーから OneClick コンソールベースのポリシーへの移行

レガシーの XML ベースの Policy Manager ポリシーは引き続きサポートされていますが、ポリシーを、XML 形式から OneClick コンソールベースの形式に移行することが推奨されています。以下プロセスは、この移行のために提案するワークフローです。テスト環境で新しいポリシーを展開することを強くお勧めします。

1. 変換するポリシーを識別します。一番基本的なポリシーから始めます。
2. `<$SPECROOT>/PolicyMgmt` ディレクトリにある XML ファイルからポリシーを削除し、ポリシーを再ロードします。
この手順では、ポリシーの適用を中止し、ポリシーを削除します。
3. OneClick コンソールユーザインターフェースを使用して、同じポリシーを展開し、有効化し、テストします。
4. ポリシーが期待どおりに動作した場合は、Modeling Gateway を使用してポリシーをテスト環境からエクスポートし、それを実稼働環境にインポートします。

詳細情報

[ポリシーの作成 \(P. 11\)](#)

[ポリシーのエクスポート \(P. 40\)](#)

[ポリシーのインポート \(P. 43\)](#)

第6章: 例

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Device Fault Management ポリシーの設定 \(P. 47\)](#)

[Alarm Thresholding ポリシーの設定 \(P. 50\)](#)

Device Fault Management ポリシーの設定

この例では、OneClick コンソールを使用して、Device Fault Management ポリシーを設定する方法を示します。この例中のポリシー設定は事前に定義されています。

次の手順に従ってください:

1. [エクスプローラ] タブで [設定マネージャ] をクリックします。
コンテンツ画面とコンポーネント詳細画面に Policy Manager に関する情報が表示されます。
2. コンテンツ画面で [リスト] タブをクリックします。
既存のポリシーのリストが表示されます。
3.  をクリックします。
[ポリシーの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
4. [ポリシー名] フィールドに 「**Device Fault Management Policy**」 と入力します。

5.  をクリックします。
[ルールの設定] ダイアログ ボックスが開きます。
6. [ルール名] フィールドに 「**Device Fault Management Rule**」 と入力します。
7. [参照] をクリックします。
[グローバルコレクションの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。

8. 以下の手順に従ってポリシー用のグローバルコレクションを作成します。
 - a. [作成] をクリックします。

[グローバルコレクションの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - b. [名前] フィールドに「**All Devices**」と入力します。
 - c. [検索オプション] をクリックします。

[検索オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - d. [詳細を表示] をクリックし、[既存の追加] をクリックします。

[既存検索の追加] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - e. [Devices] フォルダを展開し、[All Devices] をクリックし、[OK] をクリックします。

[既存検索の追加] ダイアログ ボックスが閉じます。選択した検索条件が [正規表現] フィールドに表示されます。
 - f. [OK] をクリックします。

[検索オプション] ダイアログ ボックスが閉じます。
 - g. [OK] をクリックします。

[グローバルコレクションの作成] ダイアログ ボックスが閉じます。 [すべてのデバイス] グローバルコレクションが作成され、左側の [適用先] リストに追加されます。
9. [OK] をクリックします。

[グローバルコレクションの選択] ダイアログ ボックスが閉じます。
[すべてのデバイス] グローバルコレクションがこのルールに追加されます。
10. このポリシーに対して事前定義済み設定を指定します。
 - a. [ルールの設定] ダイアログ ボックスの [ルール設定] セクションで  をクリックします。

[テンプレートの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - b. 利用可能なテンプレートのリストから [無効な DLCI のアラームなし] を選択します。

[ルール設定] リストには、[無効な DLCI のアラームなし] テンプレートを構成するポリシー設定が表示されます。

c. [OK] をクリックします。

[テンプレートの選択] ダイアログ ボックスが閉じ、このルールに設定が追加されます。

d. 最初のパラメータである `NoInvalidDLCIAlarms_1` を選択し、 をクリックします。

[属性設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

e. [属性値] に「いいえ」を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

[属性設定] ダイアログ ボックスは閉じ、属性値が定義されます。

f. `NoInvalidDLCIAlarms_2` に対して前述 2 つの手順を繰り返します。

これですべての属性に値が指定されます。

11. [OK] をクリックします。

[ルールの設定] ダイアログ ボックスが閉じ、ルールがポリシーに追加されます。

12. [作成時にポリシーを有効化] を選択することで、ポリシーの作成時に、ポリシーを有効化してからすぐに適用します。

13. [OK] をクリックします。

[ポリシーの設定] ダイアログ ボックスが閉じます。Device Fault Management ポリシーが作成され、有効化され、ポリシー リストに表示されます。

詳細情報:

[Device Fault Management ポリシー \(P. 57\)](#)

Alarm Thresholding ポリシーの設定

この例では、ネットワーク上のデバイス用に Alarm Thresholding ポリシーを設定する方法を示します。この例では 2 つのアラームしきい値ポリシー設定を作成します。1 つはルータに適用されるもの、もう 1 つはスイッチに適用されられるものです。

この例では以下の属性が使用されます。

- Value_When_Yellow (0x1000c)
- Value_When_Orange (0x1000d)
- Value_When_Red (0x1000e)
- Yellow_Threshold (0x10010)
- Orange_Threshold (0x10011)
- Red_Threshold (0x10012)

次の手順に従ってください:

1. [エクスプローラ] タブで [設定マネージャ] をクリックします。
コンテンツ画面とコンポーネント詳細画面に Policy Manager に関する情報が表示されます。
2. コンテンツ画面で [リスト] タブをクリックします。
既存のポリシーのリストが表示されます。
3.  をクリックします。
[ポリシーの編集] ダイアログ ボックスが開きます。
4. [ポリシー名] フィールドに 「**Alarm Thresholding Policy**」 と入力します。
5.  をクリックします。
[ルールの設定] ダイアログ ボックスが開きます。
6. [ルール名] フィールドに 「**Router Alarm Threshold Rule**」 と入力します。
7. [参照] をクリックします。
[グローバルコレクションの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。

8. 以下の手順に従ってポリシー用のグローバルコレクションを作成します。
 - a. [作成] をクリックします。

[グローバルコレクションの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - b. [名前] フィールドに「**Routers**」と入力します。
 - c. [検索オプション] をクリックします。

[検索オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - d. [属性] ドロップダウンリストから [モデルクラス (0x11ee8)] を選択します。
 - e. [属性値] ドロップダウンリストから [ルータ] を選択します。
 - f. [OK] をクリックします。

[検索オプション] ダイアログ ボックスが閉じます。
 - g. [OK] をクリックします。

[グローバルコレクションの作成] ダイアログ ボックスが閉じます。 **Routers** グローバルコレクションが作成され、左側にある [適用先] リストに追加されます。
9. [OK] をクリックします。

[グローバルコレクションの選択] ダイアログ ボックスが閉じて、**Routers** グローバルコレクションがこのルールに追加されます。
10. このポリシーに対して事前定義済み設定を指定します。
 - a. [ルールの設定] ダイアログ ボックスの [ルール設定] セクションで  をクリックします。

[テンプレートの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - b. 利用可能なテンプレートのリストから [アラームしきい値設定テンプレート] を選択します。

[ルール設定] リストに、アラームしきい値設定テンプレートを構成するポリシー設定が表示されます。
 - c. [OK] をクリックします。

[テンプレートの選択] ダイアログ ボックスが閉じ、このルールに設定が追加されます。

d. 最初のパラメータ (AlarmThresholdingSettingsTemplate_1) を選択し、



をクリックします。

[属性設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

e. [属性値] に **2** を入力し、[OK] をクリックします。

[属性設定] ダイアログ ボックスは閉じ、属性値が定義されます。

f. 以下の設定に対して前述の 2 つの手順を繰り返します。

- AlarmThresholdingSettingsTemplate_2 : **3**
- AlarmThresholdingSettingsTemplate_3 : **4**
- AlarmThresholdingSettingsTemplate_4 : **4**
- AlarmThresholdingSettingsTemplate_5 : **6**
- AlarmThresholdingSettingsTemplate_6 : **8**

これですべての属性に値が指定されます。

11. [OK] をクリックします。

[ルールの設定] ダイアログ ボックスが閉じ、ルールがポリシーに追加されます。



12. をクリックします。

[ルールの設定] ダイアログ ボックスが開きます。

13. [ルール名] フィールドで **[Switch Alarm Threshold Rule]** と入力します。

14. [参照] をクリックします。

[グローバルコレクションの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。

15. 以下の手順に従ってポリシー用のグローバルコレクションを作成します。

a. [作成] をクリックします。

[グローバルコレクションの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。

b. [名前] フィールドに **「Switches」** と入力します。

c. [検索オプション] をクリックします。

[検索オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。

- d. [属性] ドロップダウンリストから [モデルクラス (0x11ee8)] を選択します。
- e. [属性値] ドロップダウンリストから [スイッチ] を選択します。
- f. [OK] をクリックします。
[検索オプション] ダイアログボックスが閉じます。
- g. [OK] をクリックします。
[グローバルコレクションの作成] ダイアログボックスが閉じます。 **Switches** グローバルコレクションが作成され、左側の [適用先] リストに追加されます。

16. [OK] をクリックします。
[グローバルコレクションの選択] ダイアログボックスが閉じて、 **Switches** グローバルコレクションがこのルールに追加されます。

17. このポリシーに対して事前定義済み設定を指定します。

- a. [ルールの設定] ダイアログボックスの [ルール設定] セクションで  をクリックします。
[テンプレートの選択] ダイアログボックスが表示されます。
- b. 利用可能なテンプレートのリストから [アラームしきい値設定テンプレート] を選択します。
[ルール設定] リストに、アラームしきい値設定テンプレートを構成するポリシー設定が表示されます。
- c. [OK] をクリックします。
[テンプレートの選択] ダイアログボックスが閉じ、このルールに設定が追加されます。
- d. 最初のパラメータ (AlarmThresholdingSettingsTemplate_1) を選択し、  をクリックします。
[属性設定] ダイアログボックスが表示されます。

e. [属性値] に **1** を入力し、[OK] をクリックします。

[属性設定] ダイアログ ボックスは閉じ、属性値が定義されます。

f. 以下の設定に対して前述の 2 つの手順を繰り返します。

- AlarmThresholdingSettingsTemplate_2 : **2**
- AlarmThresholdingSettingsTemplate_3 : **3**
- AlarmThresholdingSettingsTemplate_4 : **3**
- AlarmThresholdingSettingsTemplate_5 : **4**
- AlarmThresholdingSettingsTemplate_6 : **5**

これですべての属性に値が指定されます。

18. [OK] をクリックします。

[ルールの設定] ダイアログ ボックスが閉じ、ルールがポリシーに追加されます。

19. [作成時にポリシーを有効化] を選択することで、ポリシーの作成時に、ポリシーを有効化してからすぐに適用します。

20. [OK] をクリックします。

[ポリシーの設定] ダイアログ ボックスが閉じます。Alarm Thresholding ポリシーが作成され、有効になり、ポリシー リストに表示されます。

詳細情報

[Alarm Thresholding ポリシー \(P. 61\)](#)

付録 A: 推奨するポリシー設定

このセクションでは、サイトに実装可能な推奨ポリシーについて説明します。各推奨ポリシーは、事前定義済みの設定テンプレート内の設定に基づいています。各テンプレートでは、属性がそれぞれ異なる方法で設定されます。ネットワーク管理の実装方法と一致するポリシー設定を選択します。また、特定のニーズに適合するように設定を調節することもできます。

このようなポリシー設定内の属性には、事前定義済みの値を持っていないものがあります。そのような属性に対しては、必要に応じて、独自の設定を作成できます。属性を適用しない場合は、該当する属性をルールから削除します。

Port Fault Management ポリシー

Port Fault Management ポリシーは、障害管理に関するすべてのポート レベル属性を維持するために使用されます。

ポリシー設定

このポリシーには、以下に示す 4 つの事前定義済み設定テンプレートがあります。

パッシブ ポート監視

これらの設定では、パッシブ手段のみを使用するポートステータス監視を有効にします。CA Spectrum はリンク ダウン ラップをリスンし、必要に応じてアラームを生成します。この方法は、ポートステータスの監視手段として最も効率的ですが信頼性は最も低くなります。これらの設定はデフォルト CA Spectrum 設定です。

ライブ パイプ

これらの設定では、[ライブ パイプ] を使用するポートステータス監視を有効にします。CA Spectrum は、モデリングされた接続におけるポートのステータスをアクティブにポーリングします。すべてのアプリケーションでの有色のパイプは、接続のステータスを示します。迅速な障害検出のために、トラップ ベースの監視も有効にされます。

未接続ポートのポーリング

これらの設定では、CA Spectrum で接続がモデリングされていないポートのポートステータス監視を有効にします。CA Spectrum は、ポートのステータスをアクティブにポーリングします。迅速な障害検出のために、トラップベースの監視も有効にされます。

無効ポート監視/アラームなし

これらの設定では、ポートステータス監視方法をすべて無効にし、関連するアラームが生成されないようにします。

属性

Port Fault Management ポリシーでは、以下の属性が使用されます。

PollPortStatus

属性 ID : 0x1280a

接続がモデリングされていないポートのステータス ポーリングを制御します。

ok_to_poll

属性 ID : 0x11dd8

このポートと関連付けられたパイプをライブにするかどうかを制御します。ポートのステータスはポーリングされます。

AlarmOnLinkDownTrap

属性 ID : 0x11fc2

この特定のポートのリンクダウン トラップを CA Spectrum で処理するかどうかを決定します。

AssertLinkDownAlarm

属性 ID : 0x12957

このポートに対するリンク ダウン トラップが受信された場合に CA Spectrum でデバイス モデルに黄色のアラームを生成するかどうかを決定します。

GeneratePortStatusAlarms

属性 ID : 0x12a54

このポートでポートステータスアラームが生成されるかどうかを指定します。

Device Fault Management ポリシー

Device Fault Management Policy は、障害管理に関するすべてのデバイス レベル属性を維持するために使用されます。

ポリシー設定

このポリシーには、次に示す 1 つの事前定義済み設定テンプレートがあります。

無効な DLCI のアラームなし

これらの設定では、CA Spectrum が '無効' 状態にある DLCI ポートで赤色のアラームを生成するのを防止します。無効な DLCI のコンディションは赤色ではなく茶色です。

属性

Device Fault Management ポリシーでは、以下の属性が使用されます。

PollPortStatus

属性 ID : 0x12809

接続がモデリングされていないポートのポートステータスのポーリングをデバイス レベルで制御します。

support_ICMP

属性 ID : 0x11d3d

SNMP 接続が切断されたときに CA Spectrum が ICMP を使用してデバイスへの接続を試行するかどうかを決定します。

AlarmOnInvalidDLCIs

属性 ID : 0x129ee

「無効」状態にある DLCI ポートで、CA Spectrum によって赤のアラームが生成されるかどうかを決定します。FALSE に設定すると、無効な DLCI のコンディションは赤色ではなく茶色になります。

General Management ポリシー

General Management ポリシーは、全般的なネットワーク管理に関するデバイス レベル属性をすべてを維持するために使用されます。

ポリシー設定

このポリシーには、次に示す 2 つの事前定義済み設定テンプレートがあります。

保守モード

これらの設定では、モデル管理を一時停止し、モデルを保守モードにします。モデルの状況を表す色は茶色となり、モデルではイベントもアラームも生成されません。SNMP リクエストはエージェントに送信されません。

イベント生成なし

これらの設定によって、モデルでのイベントおよびアラーム生成が一時停止されます。SNMP リクエストはエージェントに送信されます。

属性

General Management ポリシーでは、以下の属性が使用されます。

isManaged

属性 ID : 0x1295d

CA Spectrum によるこのモデルの管理方法を制御します。FALSE に設定されると、CA Spectrum によって管理が一時停止されます。

IsEventCreationEnabled

属性 ID : 0x129f8

モデル上でイベントを生成するかどうかを制御します。FALSE に設定すると、CA Spectrum によってモデル上でのイベントの生成は中止されますが、SNMP および ICMP 通信は引き続き許可されます。

Criticality

属性 ID : 0x1290c

このデバイスまたはポート モデルの相対的な重要性を決定します。この値は接続切断アラームの影響の重大度を決定するときに使用されます。任意の数値がサポートされています。

DisableTrapEvents

属性 ID : 0x11cd0

CA Spectrum によってトラップが特定のポート モデル上のイベントにエスカレートされるかどうかを決定します。

ContactStatusEventSwitch

属性 ID : 0x11a56

デバイスの Contact_Status が変化したときに CA Spectrum によってイベントが生成されるかどうかを決定します。

Polling/Communication ポリシー

Polling/Communication ポリシーは、SNMP エージェントのポーリングおよび SNMP エージェントとの通信に関するすべてのデバイス属性およびポート属性を維持する場合に使用されます。

ポリシー設定

このポリシーには、以下に示す 4 つの事前定義済み設定テンプレートがあります。

ログ記録なし

モデルのモデル統計はログ記録されません。

1 分ポーリング

モデルは 60 秒ごとにポーリングされます。

5 分ポーリング

モデルは 300 秒ごとにポーリングされます。

10 分ポーリング

モデルは 600 秒ごとにポーリングされます。

属性

Polling/Communication ポリシーでは、以下の属性が使用されます。

ポーリング ステータス

属性 ID : 0x1154f

モデルの指定された属性が CA Spectrum によってポーリングされるかどうかを決定します。

ポーリング 間隔

属性 ID : 0x10071

CA Spectrum によるこのモデルのポーリング頻度を制御します。

ポーリング ログ率

属性 ID : 0x10072

モデル統計がログ記録される頻度を制御します。 実際の間隔は Polling_Interval と Poll_Log_Ratio を掛け算することによって求められます。

DCM タイムアウト(ミリ秒)

属性 ID : 0x110c4

再試行を送信する前に CA Spectrum が SNMP 応答を待機する時間を決定します。

DCM 再試行回数

属性 ID : 0x110c5

失敗する前に CA Spectrum が SNMP Get 要求を試行する回数を決定します。

SNMP コミュニティ文字列

属性 ID : 0x10024

SNMP エージェントと通信するための SNMP パスワードを指定します。

CommunityNameForSNMPSets

属性 ID : 0x11a7f

SNMP セットを実行するための SNMP パスワードを指定します。 この属性がモデルに対して入力されなかった場合、CA Spectrum は [SNMP コミュニティ文字列] の値を使用します。

スロットル制御

属性 ID : 0x11f79

デバイスへの未処理 SNMP 要求の量が CA Spectrum によって制限されるかどうかを制御します。スロットル制御は、大量の SNMP 要求を処理できない SNMP エージェントに関する問題を軽減するのに役に立ちます。

スロットル数

属性 ID : 0x11f39

デバイスに対してスロットル制御が有効化された場合に許可される未処理 SNMP 要求の数を決定します。

Agent_Port

属性 ID : 0x10023

SNMP エージェントと通信するためのポート番号を制御します。

メッセージ サイズ

属性 ID : 0x1197b

CA Spectrum が SNMP エージェントに送信できる最大パケット サイズ (バイト) を決定します。

Alarm Thresholding ポリシー

Alarm Thresholding ポリシーには、モデルのロールアップ条件と重大なレベルに関連する属性がすべてを含まれます。

ポリシー設定

このポリシーには、次に示す 1 つの事前定義済み設定テンプレートがあります。

アラームしきい値設定テンプレート

これらの設定は、モデルのロールアップ条件および重大なレベルを制御します。

属性

Alarm Thresholding ポリシーでは以下の属性が使用されます。

Value_When_Yellow

属性 ID : 0x1000c

その条件が黄色である場合にモデルが継承する重大なレベルを指定します。

Value_When_Orange

属性 ID : 0x1000d

その条件がオレンジ色である場合にモデルが継承する重大なレベルを指定します。

Value_When_Red

属性 ID : 0x1000e

その条件が赤色である場合にモデルが継承する重大なレベルを指定します。

Yellow_Threshold

属性 ID : 0x10010

ロールアップ条件が黄色になるタイミングを制御するしきい値を指定します。ロールアップ条件は、その複合条件がこの値以上になると黄色になります。

Orange_Threshold

属性 ID : 0x10011

ロールアップ条件がオレンジ色になるタイミングを制御するしきい値を指定します。ロールアップ条件は、その複合条件がこの値以上になるとオレンジ色になります。

Red_Threshold

属性 ID : 0x10012

ロールアップ条件が赤色になるタイミングを制御するしきい値を指定します。ロールアップ条件は、その複合条件がこの値以上になると赤色になります。

Port Performance Thresholding ポリシー

Port Performance Thresholding ポリシーには、ポートパフォーマンスの計算して警報を出すためのすべての属性が含まれます。

ポリシー設定

このポリシーには、次に示す 1 つの事前定義済み設定テンプレートがあります。

ポートパフォーマンスしきい値設定テンプレート

これらの設定は、ポートのパフォーマンスを計算し警報を発するために使用されます。

属性

Port Performance Thresholding ポリシーでは、以下の属性が使用されます。

使用率しきい値

属性 ID : 0x1294b

ポートにかかる負荷のしきい値を指定します。負荷がこの値に等しいか、この値を超えると、アラームが生成されます。

使用率リセット

属性 ID : 0x1294f

ポートの負荷に対するアラームがクリアされるタイミングを制御するしきい値を指定します。負荷がこの値を下回ると、アラームはクリアされます。

SET LEVEL IN LD

属性 ID : 0x12d9f

ポートでの受信負荷のしきい値を指定します。受信負荷がこの値以上になると、アラームが生成されます。

RESET LEVEL IN LD

属性 ID : 0x12da0

ポートの受信負荷に対するアラームがクリアされるタイミングを制御するしきい値を指定します。受信負荷がこの値を下回ると、アラームはクリアされます。

SET LEVEL OUT LD

属性 ID : 0x12da3

ポートでの送信負荷のしきい値を指定します。送信負荷がこの値以上になると、アラームが生成されます。

RESET LEVEL OUT LD

属性 ID : 0x12da4

ポートの送信負荷に対するアラームがクリアされるタイミングを制御するしきい値を指定します。送信負荷がこの値を下回ると、アラームはクリアされます。

SET LEVEL PR 64

属性 ID : 0x12da7

ポートにおけるパケット レートのしきい値を指定します。パケット レートがこの値以上になると、アラームが生成されます。

RESET LEVEL PR 64

属性 ID : 0x12da8

ポートのパケット レートに対するアラームがクリアされるタイミングを制御するしきい値を指定します。パケット レートがこの値を下回ると、アラームはクリアされます。

エラー率しきい値(マイクロパーセント)

属性 ID : 0x1294d

ポート上のエラー率のしきい値を指定します。エラー レートがこの値以上になると、アラームが生成されます。この属性の単位は、マイクロパーセント (1 パーセントの $1/1,000,000$ パーセント) です。たとえば、1 パーセントは 1000000 と入力します。

エラー率リセット(マイクロパーセント)

属性 ID : 0x12951

ポートのエラー レートに対するアラームがクリアされるタイミングを制御するしきい値を指定します。エラー レートがこの値を下回ると、アラームはクリアされます。この属性の単位は、マイクロパーセント (1 パーセントの $1/1,000,000$ パーセント) です。たとえば、1 パーセントは 1000000 と入力します。

廃棄率しきい値(マイクロパーセント)

属性 ID : 0x1294e

ポート上の廃棄レートのしきい値を指定します。廃棄レートがこの値以上になると、アラームが生成されます。この属性の単位は、マイクロパーセント (1パーセントの $1/1,000,000$ パーセント) です。たとえば、1パーセントは 1000000 と入力します。

廃棄率リセット(マイクロパーセント)

属性 ID : 0x12952

ポートの廃棄レートに対するアラームがクリアされるタイミングを制御するしきい値を指定します。廃棄レートがこの値を下回ると、アラームはクリアされます。この属性の単位は、マイクロパーセント (1パーセントの $1/1,000,000$ パーセント) です。たとえば、1パーセントは 1000000 と入力します。

Device Configuration ポリシー

Device Configuration ポリシーには、CA Spectrum によるデバイスの自動設定の方法に関する属性がすべてを含めます。

ポリシー設定

このポリシーには、次に示す 1 つの事前定義済み設定テンプレートがあります。

冗長を無効化

これらの設定では、CA Spectrum でデバイスの自動設定を処理する方法を制御します。デフォルトでは、CA Spectrum は、冗長優先アドレスのリストが存在する場合でも、プライマリアドレスがアクセス可能な場合に限りモデルを更新します。

属性

Device Configuration ポリシーでは以下の属性が使用されます。

RedundancyEnabled

属性 ID : 0x11d2c

プライマリ アドレスがアクセス可能でなく、冗長優先アドレスのリストが存在する場合に、CA Spectrum によってモデルが更新されるかどうかを指定します。

Rdnd_CheckGenAlarms

属性 ID : 0x11dd6

冗長インテリジェンスがネットワーク アドレスを更新した場合に CA Spectrum によってアラームが生成されるかどうかを制御します。

If_IsAutoCnfgActive

属性 ID : 0x11dd4

このデバイスで変更が検出された場合に CA Spectrum がインターフェースのモデリングを自動的に更新するかどうかを決定します。

Create_Sub_Interfaces

属性 ID : 0x11f3c

CA Spectrum によってこのデバイスの論理的なインターフェースがモデル링されるかどうかを決定します。

注: このデバイスが RFC 1573 をサポートする場合にのみ、この設定が適用されます。

DiscoverConnectionsAfterLinkUpEvent

属性 ID : 0x11d25

このデバイスが LINK UP または LINK DOWN トランプを送信した場合に、CA Spectrum によってインターフェースが再モデリングされるかどうかを制御します。

DeviceDiscoveryAfterReconfig

属性 ID : 0x11d27

再設定の実行後に CA Spectrum がデバイス インタフェースからの接続のナレッジを更新するかどうかを決定します。

IsMovable

属性 ID : 0x11a80

ディスカバリ プロセス中にデバイスマodelが CA Spectrum によって別のトポロジの場所に再配置されるかどうかを制御します。

IfModelNameOption

属性 ID : 0x12a1e

デバイス レベルでインターフェース モデルの命名規則を制御します。属性 ID は、インターフェース モデルのモデル名に追加するサフィックスを決定するのに使用されます。有効な属性 ID には、以下のようなものがあります。

- 0x11f7e (ifAlias)
- 0x1134b (ifDescr)
- 0x11f6f (ifName)
- 0x11348 (ifIndex)

Disposable_Precendence

属性 ID : 0x114e2

このデバイスのモデリング優先順位を決定します。より高い優先順位を持つ重複デバイスが作成された場合は、優先順位の低い方のデバイスマodelが自動的に破棄されます。

付録 B: Policy Manager の権限

このセクションでは、OneClick ユーザの Policy Manager 権限を一覧します。

注: 権限の設定の詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

Policy Manager

管理者は Policy Manager アプリケーションを設定できます。オペレータは Policy Manager アプリケーションを表示できます。

エクスプローラ アドオン ビュー/Policy Manager 階層

Policy Manager ノードが [ナビゲーション] パネルに表示されるかどうかを制御します。

ポリシー管理

ポリシー管理の権限へのアクセスを制御します。ポリシー管理の権限は、読み取り/書き込み権限を持つ管理者しか利用できません。ポリシー管理の権限を選択解除すると、以下の 2 つの権限が自動的に選択解除されます。

ポリシーの追加/編集/削除

管理者 (AdministratorRW のみ) はポリシーの作成、編集、および削除を行うことができます。この権限では、ユーザによるポリシーの有効化は許可されません。

ポリシーの有効化/無効化

管理者 (AdministratorRW のみ) は Policy Manager ポリシーを有効または無効にすることができます。

XML ベース ポリシー設定/レガシー ポリシーの再ロード

管理者はレガシーの XML ベースのポリシーを再ロードできます。